

びとう和広後援会ニュース

2020. 5. 1

第 54 号

発行責任者
浅居繁樹

安心で元気な
三田のために

これからも全力で
頑張ります！



4/8

人通りの少ない
満開の武庫川桜

後援会の皆様には、日ごろより力強いご支援・ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。皆様のご健勝とご多幸を、心から願っております。

昨年末に中国武漢で発生した新型コロナウイルスは瞬く間に世界中の脅威となりました。中国や WHO や日本政府の対応は問題だったと思っています。日本政府の対応では、春節期の受入、オリンピック開催が難しくなった2月末に突然小中高校休校要請、オリンピック延期決定後に都市圏の感染者拡大、非常事態宣言、外出自粛要請、緊急事態宣言、休業や生活の補償等々、対応が遅いです。マスク配布より、迅速な検査と医療体制の確立と、給付金が急がれます。要請と補償をセットに、一斉の活動停止期間が必要だと思います。

医療などお支え戴いている方々には本当に感謝ですが、医療は崩壊寸前で、各種行事は中止や延期です。再開や終息などの目処が立ちません。経済は、世界中で多くの倒産なども考えられ、将来まで大打撃を受けます。一緒に乗り越えて行きましょう！

防災・減災、安心・安全は行政の第一課題だと考えて活動してきましたが、今回の感染症は、今までの発想にはない「人との接触」が否定されるものです。会社活動・労働組合活動・議員活動・スポーツなど、私が行なう顔合わせや心合わせを、自粛させるものです。新たな発想で、対応を考えてまいります。

三田市議会3月議会では、日々拡大する新型コロナウイルス対策をしながら、新年度予算審議など全日程を議了しました。私も、議会運営委員や常任委員会の副委員長として、対策に関与しながら、委員会や予算審議において質問しました。

(別紙「市政報告」参照)。
一般質問は、会派を代表して、佐々木議員にお願いしました。

後援会では、2月9日「かに&温泉ツアー」を三菱電機労組と共催し、皆様から政策提言いただきました。ありがとうございます。

4月15日開催予定の後援会総会は状況を鑑み、書面審議にて議案を承認いただきました。

月2回の市政相談会開催はじめ、皆様の相談を頂戴しています。

人口減少や急激な少子化・高齢化と厳しい財政に対して、皆様の声をしっかりと聞きし、IT技術を活かした抜本的な改革を訴えながら、皆様の声を活かした安心・元気で、持続可能な市政へと、頑張ります。引き続き、力強いご支援・ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



三田市議会議員
びとうかずひろ
和広



びとう和広の活動日記

1月以降の活動報告です。

地元とんど

1/11



地域行事とんど大会
写真の竹組みに、小学生の書初めを付けた竹笹を周囲に立て掛け、注連飾りや門松等と一緒に焼きます。私は、竹笹の立て掛け・着火と火の番をお手伝い。

関連労組研修会

関連労組研修会で講演。皆様の要望と結果報告。



1/18



小学生バレーボール大会 1/19

地元団体後援の小学生バレーボール大会：協会長として開会のご挨拶。市長にもご臨席・ご挨拶頂きました。

企業誘致の町を調査



1/21

徳島県神山町
転入者住宅を町が建築し、サテライトオフィスの誘致急増。

徳島県徳島市
健康な高齢者で、介護を遅らせる活動。ポイント制の体力づくり事業は、繰り返し申請が多く、見直し中です。

1/22



健康づくり推進を調査



1/23

野球のまち推進課を調査

徳島県阿南市
アマチュア野球の大会や合宿を誘致し、町を活性化。60歳以上のチアリーダーで大会をサポートし、町ぐるみで盛り上げ、おもてなし。三田も関係がありました。

労連地協15周年行事



労連地協15周年行事
大阪で行なわれた記念行事に同行し、日頃のお礼と挨拶。

2/13

三菱電機労組中央委員会で挨拶。公認決定のお礼と市政報告。四期目の活動報告と、大きな転換点にある日本や三田市に対する、今後の抱負を訴えました。



三菱電機労組中央委員会



車椅子バスケット

車椅子バスケット観戦
パラリンピック競技を観戦。奥が深いです！

2/15



2/18

富士が丘 寿の湯 内覧会
熊野の郷の跡に開設
温泉・フィットネス・岩盤浴・食事・リラクゼーション(写真)など充実の施設です。

寿(ことぶき)の湯オープン



元気一杯OB会 2/20

会社OB会 余部鉄橋見学&かにツアーに同行。乗降の都度、アルコール消毒液でコロナ対策しました。

3月以降は新型コロナウイルス対策で事業が中止・延期。計画行事はほとんど中止・延期となりました。また、後援会や各種団体の総会は縮小か書面審議となりました。行事はなくなりましたが、皆様のご相談や問合せを多く頂いております。しっかりと対応させていただきます。

びとう和広の視点



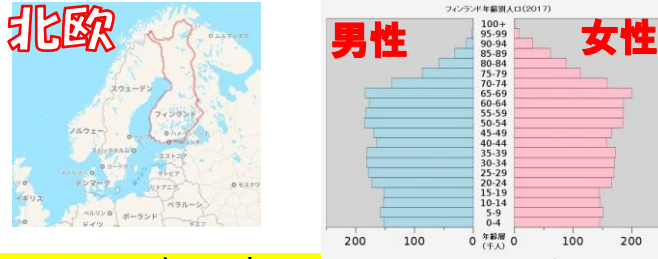
今回は2月に受講し、感銘した「フィンランドの子育てと教育」について、報告します。

■三田市は関西のフィンランドを目指しています。
・子育てのネウボラ（切れ目のない支援）、学力は世界トップクラス、ノルディックウォーキングなど

<フィンランド>…飛行機で一番日本に近い欧州

公用語：フィンランド語、スウェーデン語
面積：33.8万km²、人口：551万人（2018年末）
首都：ヘルシンキ（最大都市：約64万人）
大統領：サウリ・ニーニスト
首相：サンナ・マリン（女性：就任時34歳は最年少）

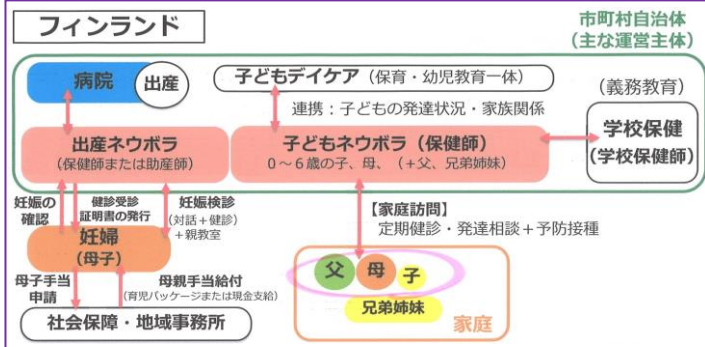
<フィンランドの位置と年齢別人口>



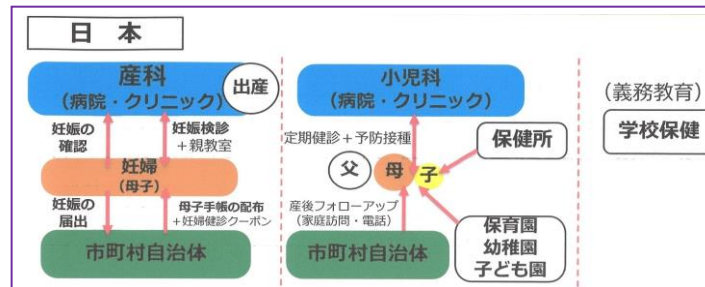
<フィンランドの子育て>

- ・高負担・高福祉で、幸福度ランキング：2年連続1位。
- ・子育て支援は、①出産時に手厚い育児パッケージ、②産休・育休の充実と普及、③ネウボラによる保育制度の充実、④就学前教育の義務化、⑤周産期から切れ目のない子育て支援、の5点に集約され、法律で保証され、地方自治体の義務として、実現している。

<切れ目のない子育て支援のイメージ>



・出産ネウボラ（保健師・助産師）と子どもネウボラ（保健師）が同じ担当者で学校保健（学校保健師）まで連携し、家族を支援する。これがフィンランドの切れ目のない子育て支援です。日本は産科と小児科、保健所と保育と学校保健と別々で、1人の子の成長を通して見ていません。



・日本は特定のリスクに集中的支援する対症療法、フィンランドは広く支援し予防的に全体リスク解消法です。いわゆるユニバーサル型は、福祉の本質だと思います。
・フィンランドは父親の育児参画が有名ですが、日本でも子の健診に父親同伴など固定観念を変えることが必要。

<フィンランドの教育>

・フィンランドは、教育にも高額支出し、公財政教育支出の対GDP比は7.2%と高い。（日本は3.6%）
・人こそ国の最大の財産として、高い水準の教育を受け、良き納税者を育て、結果的に国が潤う、と考える。大学まで教育費用は基本無償。暗記の知識量を増やす「詰め型」ではなく、個性を育てる、「自立型」の教育。

・基礎教育重視、課程主義で留年もあるが抵抗感も低い。ICT化は、100%電子黒板で、電子教材やPC・タブレットも学校貸与、教科横断的なプロジェクト学習や、VRグラス使用の体験型授業、テレビ会議で複数校合同授業もある。

・小学校前（6歳）に1年間プリ・スクールが義務化。
・20人/クラスで個性に応じ授業し、教員裁量も広い。宿題は平日授業の確認程度で、週末や長期休暇はなし。→家族や地域で過ごす方が、子どもは伸びる。

・部活動はない。（放課後地域のスポーツクラブ等に通う）教員は15時に授業が終わり、16時には帰宅する。

・教員は10人に1人くらいの狭き門で、5年ごとに更新。教員の採用は学校単位で、転勤はない。→教員への尊敬の念も強く、学校間格差も小さい。

・特別支援や語学教員の他、ソーシャルワーカーやカウンセラーや学校保健師も常駐し教員や家庭と連携している。不登校もあるが、基本復学を図り、学校卒業まで、教員が責任と自信を持っている。原因が個人の問題とは限らないので、ソーシャルワーカーの存在が大きい、とのこと。
家族コーチ制度で、しつけの手助けなど、市の職員が学校・ネウボラと連携して家族を支援。

<日本とフィンランドの学校教育制度を比較>

	日本	フィンランド
学校体系(小中高)	6-3-3制	6-3-3制(小中一貫)
義務教育	9年間(6~15歳)	9年間(7~16歳)
年度(学期制)	4~3月(3学期)	8~6月中旬(2学期)
担任制(小学校)	学級担任(35・40人)	学級担任(20人)
担任制(中学校)	教科担任	教科担任
週の授業時間	25~29時間	19~30時間(流動的)
通学校区	原則校区内	地域外可(最寄を優先)
教員免許	学士4年	学士3+修士2計5年
教育の採用権限	教育委員会	各学校の校長
英語教育の開始	小3(2018年~)	小3
義務教育の留年	制度上は可能	課程主義で留年率高
保護者負担	国公立:授業料無償 国公立立:教科書無償 教材費・給食費等は自治体裁量で公費負担	就学前教育(6歳)~大学 公私とも無償:授業料・教科書・給食費(高まで) ・公共交通費・PC・道具等

・中学卒業時進路選択は、専門的スキル職業学校が6割、大学進学を目指す高校進学が4割、途中編入も可能。
子どもが教育を受ける権利・学習をする義務はあるが、学校に通う義務はない。

<びとうの想い>

・とにかく、教育に対するコンセプトが根本的に違う。教育の目標は「自分で考えて主体的に行動し、社会で生き抜ける、自立した人を育てること。テストや習熟度より、学ぶことの楽しさや個にあった学びを重視し、生涯に亘り活躍できる人材を社会に送り出し、よき納税者となってもらふこと」。
環境も文化も違いますが、日本の詰め込み教育やゲーム脳を見ると、原体験を主体として、自ら学ぶ教育こそ、これからの方向性と考えます。知識偏重で、試験対策中心の、日本の教育制度の歪みを、早期に対策しなければならない時期を迎えていると思います。

今回の感染症対策で、ICT化やテレワークが加速します。タブレットPCでネット授業など、多様な教育を提案します。

びとう和広後援会より

1月以降の活動は以下の通りです。

2月9日：三菱電機労組と共催「かに&温泉ツアー」

3月18日：三菱電機労組(三田)構内市政報告会
→ 三密となるので、市政相談会に変更

4月15日：後援会定期総会
→ 三密となるので、書面審議に変更
後援会定期総会の議案は可決・承認となりました。
ありがとうございました。

今回、役員・幹事の交代がありました。

副会長 鈴木様 → 鳥越様
副会長 前田様 → 八木様
事務局次長 長坂様 → 山本様
幹事 武庫狭間区 村上様 → 磯尾様
すずかけ区 中様 → 池田様
三田区 松村様 → 福井様

退任の皆様、お疲れ様でした。お世話になり、本当にありがとうございました。新役員の皆様には、これからお世話になります。よろしく願いいたします。

毎月、昼休みと定時後に1日ずつ構内市政相談会を開催しました。若い社員のご要望も頂いております。

これからも「皆様との対話」を大切に、毎月2回の構内市政相談会を続けるとともに、後援会員のお宅訪問や労組訪問を続けてまいります。

ただ、当面は外出自粛要請を受け、皆様への訪問は控えさせていただき、郵送及び電話・メールにて対応させていただきます。

また、今後の計画も、新型コロナウイルスの感染状況を確認しながら進めてまいります。

皆様のご理解・ご支援・ご協力のほど、よろしくお願い致します。

後援会会長 ご挨拶

日頃より後援会活動に対しまして、ご理解とご協力いただきましてありがとうございます。

日頃より、びとう議員が市議会の場で自信をもって語れるよう、各団体のメンバーとの意見交換会や政策懇話会など、対話の促進と充実を図っています。

防災・減災、子育てならびに高齢者支援など、ご意見・ご要望をたくさん頂き、びとう議員が一つ一つ丁寧に、担当部局に確認し、お答えするとともに、市議会で質問し、皆さんからのお声を活かそうとしております。

国民民主党の議員として

電機連合の方針に従い、国民民主党議員として、兵庫5区の代表として、活動しています。

3月22日、党兵庫地協の定期大会が開催されました。党大塚代表代行と連合兵庫福永会長をお迎えし、役員と常任幹事だけの短時間開催の大会となりましたが、全件、可決・承認されました。その中で、びとう和広の今年10月開催の三田市議会議員選挙に公認決定をいただきました。

大会後、大塚代表代行との意見交換で、野党共闘・党運営・コロナ対策に30兆円の提案と今後の見込み・官僚やマスコミとの対応など、お答えいただきました。

国民民主党兵庫県連大会
生活者・納税者・働く者の立場で、国や地域で抱える課題に、現実的な対応を重視し、単に否定ではなく、与党とは異なる将来像を示す。



大塚耕平党代表代行

三菱電機労組・びとう和広後援会共催ツアー



【びとう和広 後援会 連絡先】

<連絡先> 〒669-1513 三田市三輪2丁目3番33号
三菱電機労働組合三田支部気付
Tel: 079-563-1860 Fax: 079-563-5093

<自宅> 〒669-1537 三田市西山2丁目11番13号
Tel: 079-562-8653, Fax: 079-562-0730
<電子メール> bit@venus.dti.ne.jp
<ホームページ> <http://www.bitou-kazuhiro.com>



びとう和広後援会
会長 浅居 繁樹